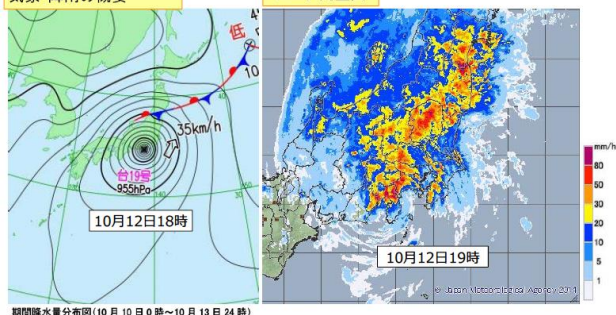


令和元年10月(台風第19号)における洪水調節効果

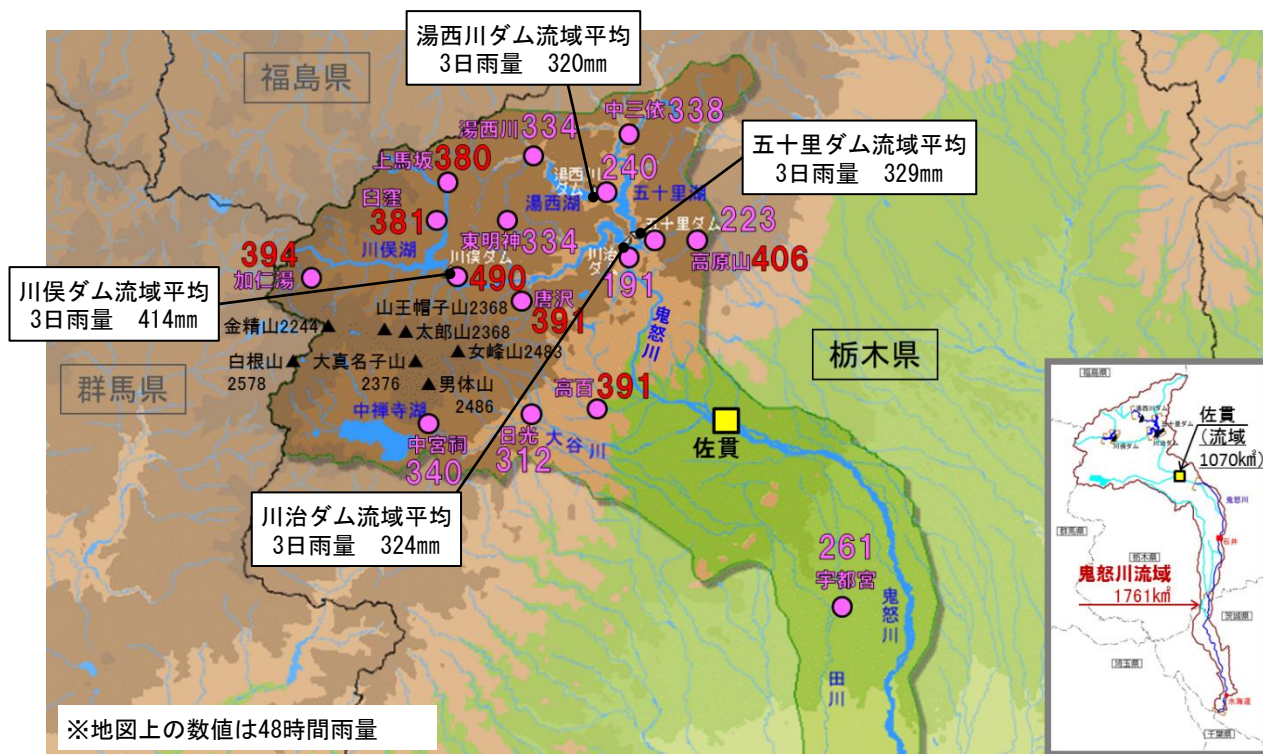
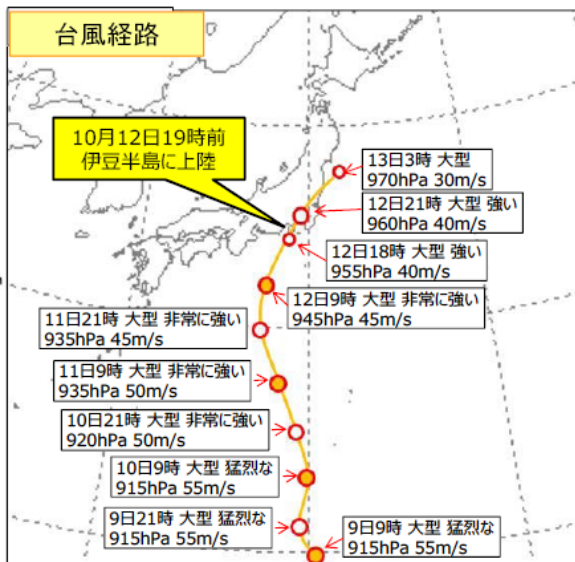
令和元年10月の台風第19号(東日本台風)では、台風本体の発達した雨雲や台風周辺の湿った空気の影響で、静岡県や関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となった。

雨量計の観測値は、10月11日0時~12日24時までの48時間で、鬼怒川本川に沿って300mmを超える分布となった。

気象・降雨の概要

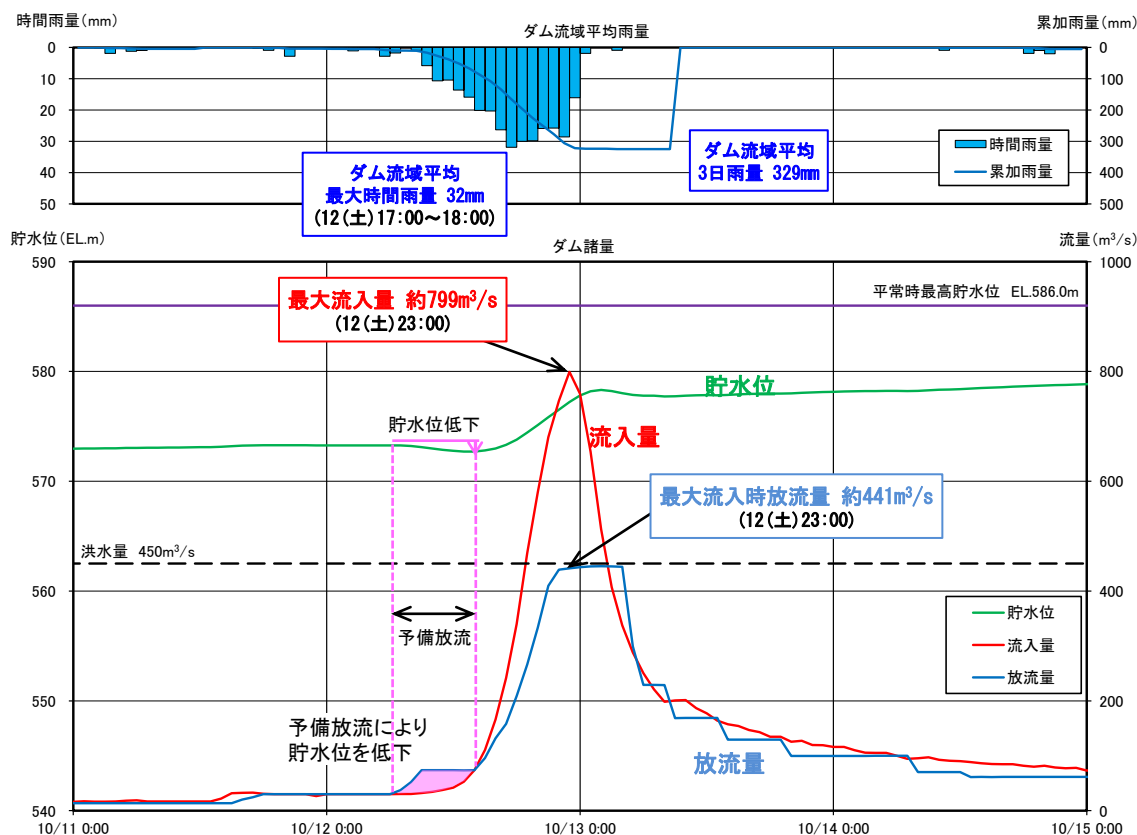


台風経路



五十里ダムの洪水調節 令和元年10月(台風第19号)

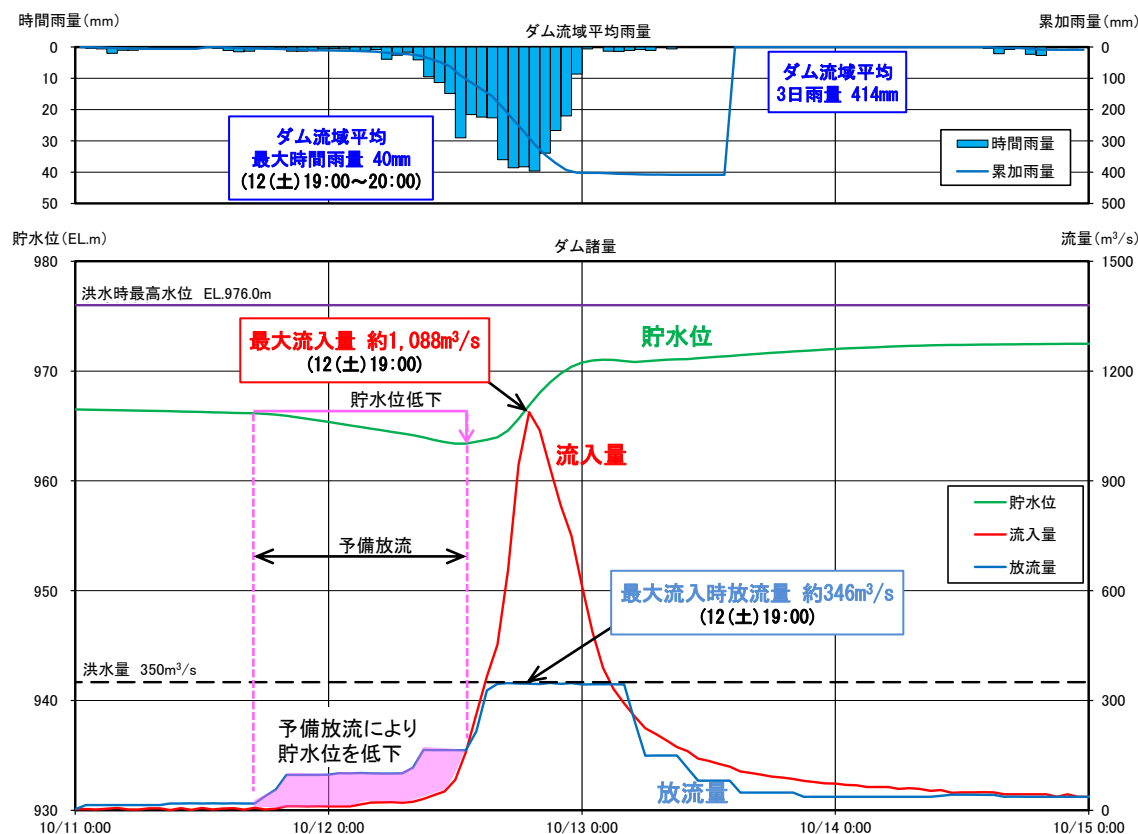
- 五十里ダムへの流入量は最大約 $799\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約4.5割(約 $358\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約5.5割(約 $441\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。
- また、台風第19号において、五十里ダムにおいては予備放流を実施し、異常洪水時防災操作への移行の回避に努めた。



五十里ダムの調節状況と貯留状況

川俣ダムの洪水調節 令和元年10月(台風第19号)

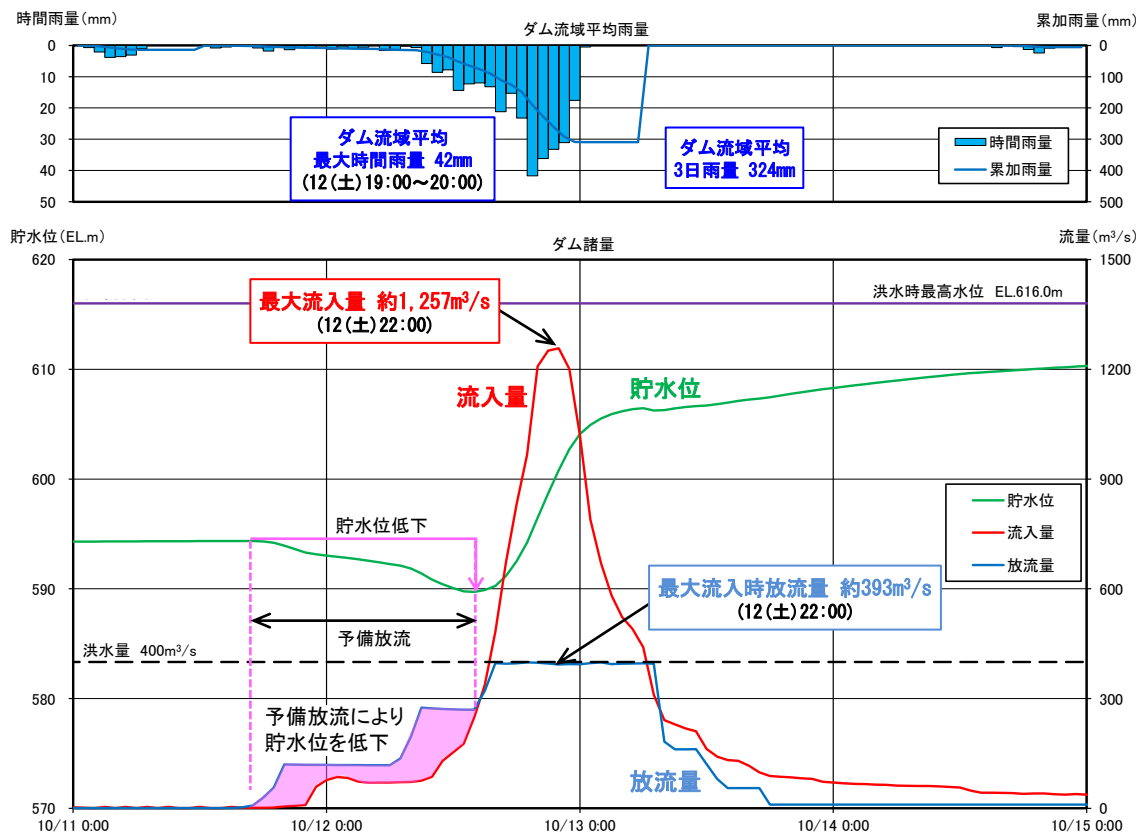
- 川俣ダムへの流入量は最大約 $1,088\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約7割(約 $742\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約3割(約 $346\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。
- また、台風第19号において、川俣ダムにおいては予備放流を実施し、異常洪水時防災操作への移行の回避に努めた。



川俣ダムの調節状況と貯留状況

川治ダムの洪水調節 令和元年10月(台風第19号)

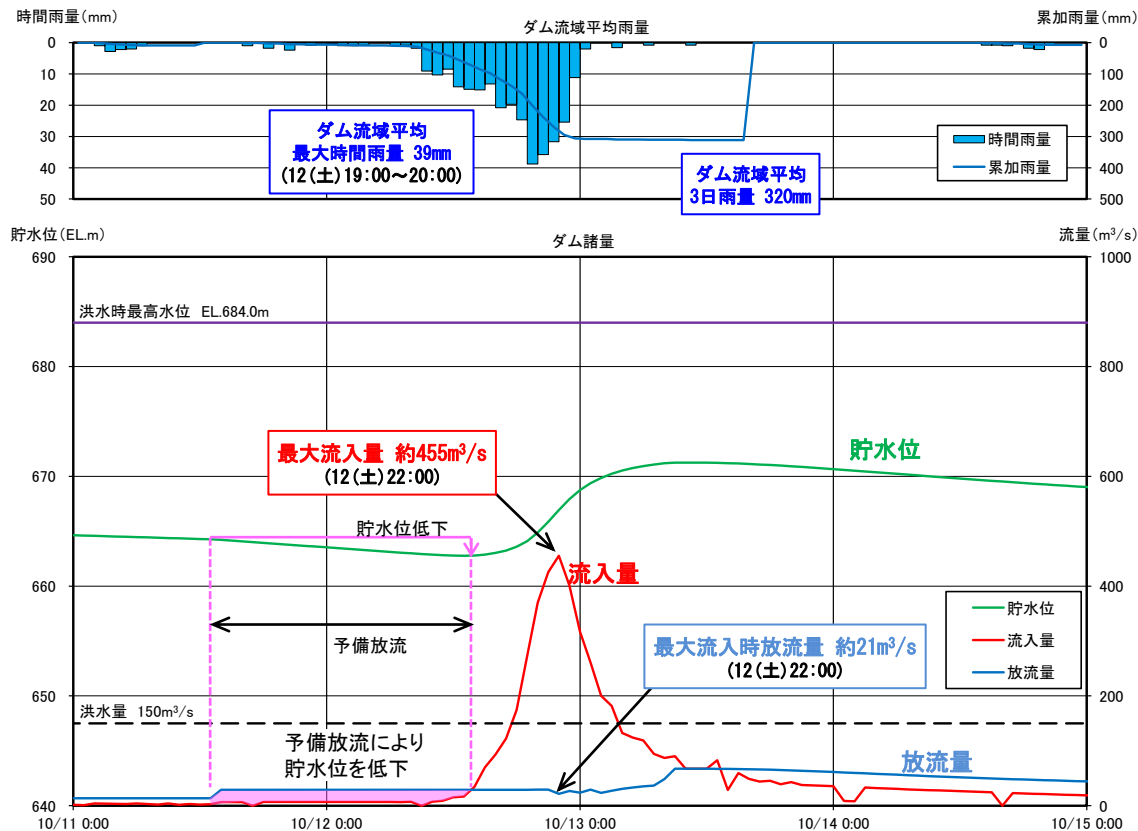
- 川治ダムへの流入量は最大約 $1,257\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約7割(約 $864\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約3割(約 $393\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。
- また、台風第19号において、川治ダムにおいては予備放流を実施し、異常洪水時防災操作への移行の回避に努めた。



川治ダムの調節状況と貯留状況

湯西川ダムの洪水調節 令和元年10月(台風第19号)

- 湯西川ダムへの流入量は最大約 $455\text{m}^3/\text{s}$ に達したが、そのうち約9.5割(約 $434\text{m}^3/\text{s}$)を貯留し、下流への放流量を約0.5割(約 $21\text{m}^3/\text{s}$)に抑えた。
- また、台風第19号において、湯西川ダムにおいては予備放流を実施した。



湯西川ダムの調節状況と貯留状況

令和元年10月(台風第19号)における洪水調節効果

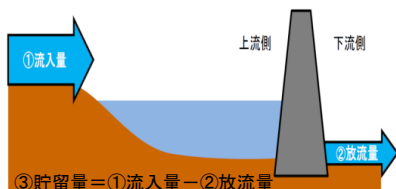
- 4ダム上流域では、累加雨量409mm(川俣ダム)、川治ダム・川俣ダム・湯西川ダム・五十里ダムの4ダム合計で約6,100万m³ (東京ドーム約50杯分)の水を貯留した。
- 鬼怒川上流ダム群で貯留することにより、4ダム下流の川治温泉地区付近では、ダムが無いと仮定した場合の水位と比較して、4.6m水位を低下させたと想定される。
- ダム群が無い場合、温泉施設があとわずかで浸水する恐れがあったが、安全に流下させることができた。



※ダムの写真は平成27年に撮影されたものです。

洪水効果

	①流入量	②放流量	③貯水量
川俣ダム	1,088m ³ /s	346m ³ /s	742m ³ /s
川治ダム	1,257m ³ /s	393m ³ /s	864m ³ /s
湯西川ダム	455m ³ /s	21m ³ /s	434m ³ /s
五十里ダム	799m ³ /s	441m ³ /s	358m ³ /s



ダムの効果

川治温泉地区へ溢水することなく安全に流下

川治温泉地区
温泉施設



※令和元年10月13日現在の速報値であり、数値等は今後変わることがあります。
※図は模式的に表現したものであり実際とは異なります。

出水状況(川治温泉地区)



撮影: 令和元年
10月13日(日)
7:00